

令和6年度 東京都消費生活調査員調査 「子供の安全に関する調査」 結果概要

◆目的

子供の事故やケガについての情報収集及び発信方法について調査し、「こどものケガを減らすためにみんなをつなぐプラットフォーム『Safe Kids』」の今後の施策展開の基礎資料として活用する。

◆調査期間

令和6年9月13日から27日

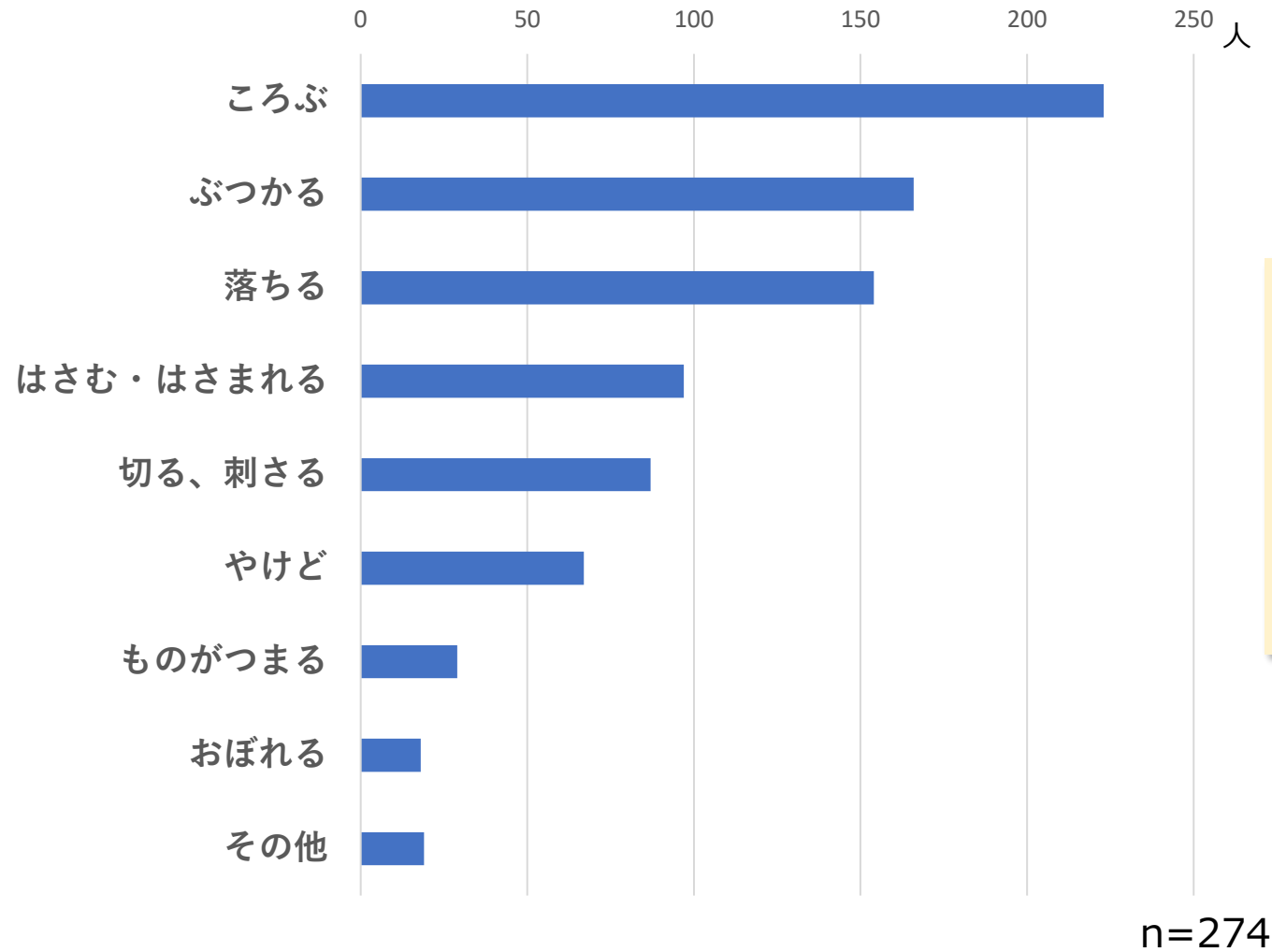
◆回答調査員数

274名

◆集計上の注意事項

- ・割合（％）は、小数点第1位を四捨五入して算出した。
- ・設問によっては、複数回答の結果、割合の合計が100%を超える場合がある。
- ・グラフに表記される「n＝○」（○は数字）は、回答者数を示す。

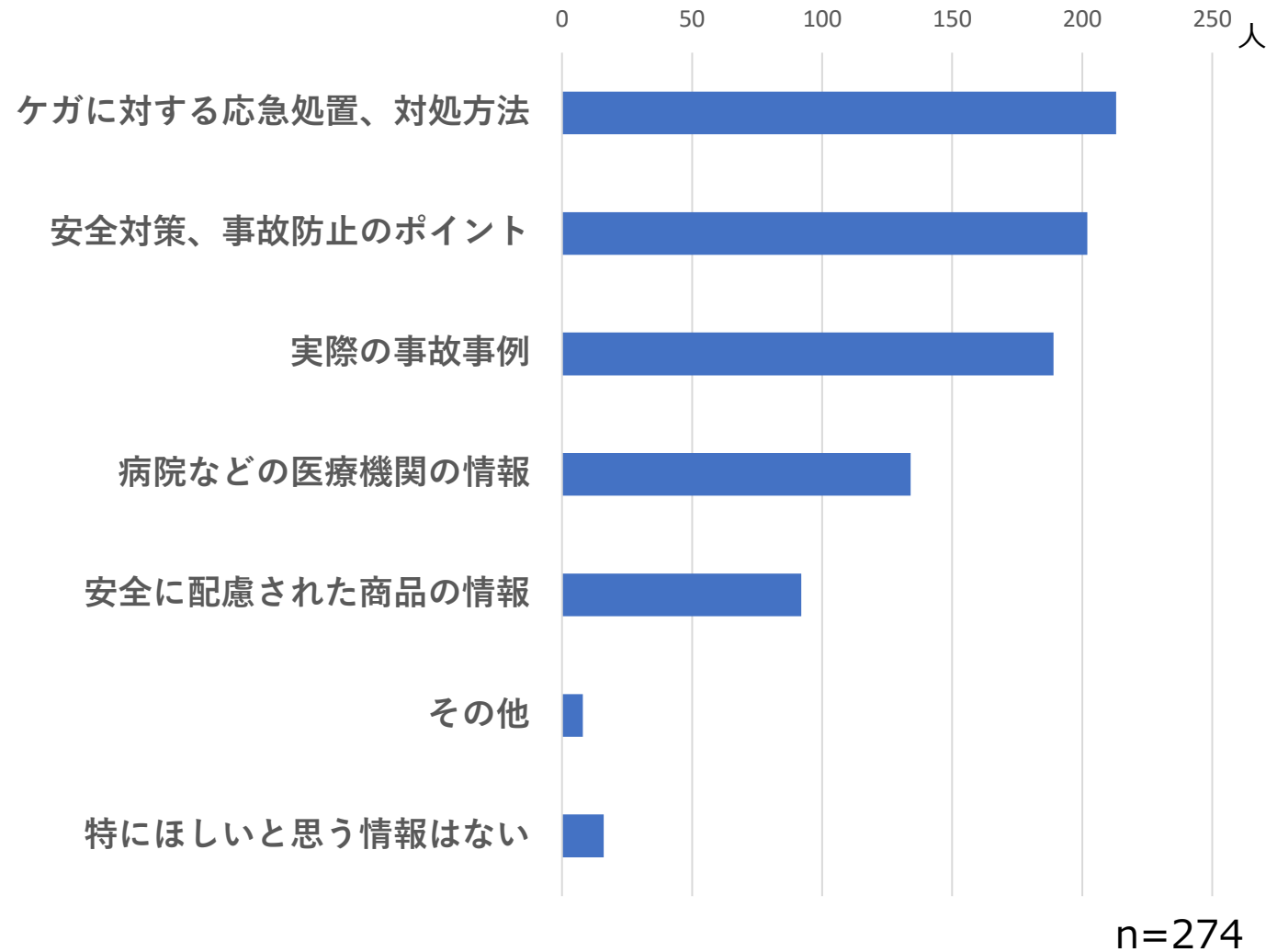
日常生活における子供の事故で、身の回りで起こったもの



「ころぶ」が最も多く（223人・81%）、次いで「ぶつかる」が166人（61%）、「落ちる（階段やベッドなど高低差のあるものからの転落）」が154人（56%）であった。

日常生活における子供の事故で、身の回りで起こったもの
(複数回答)

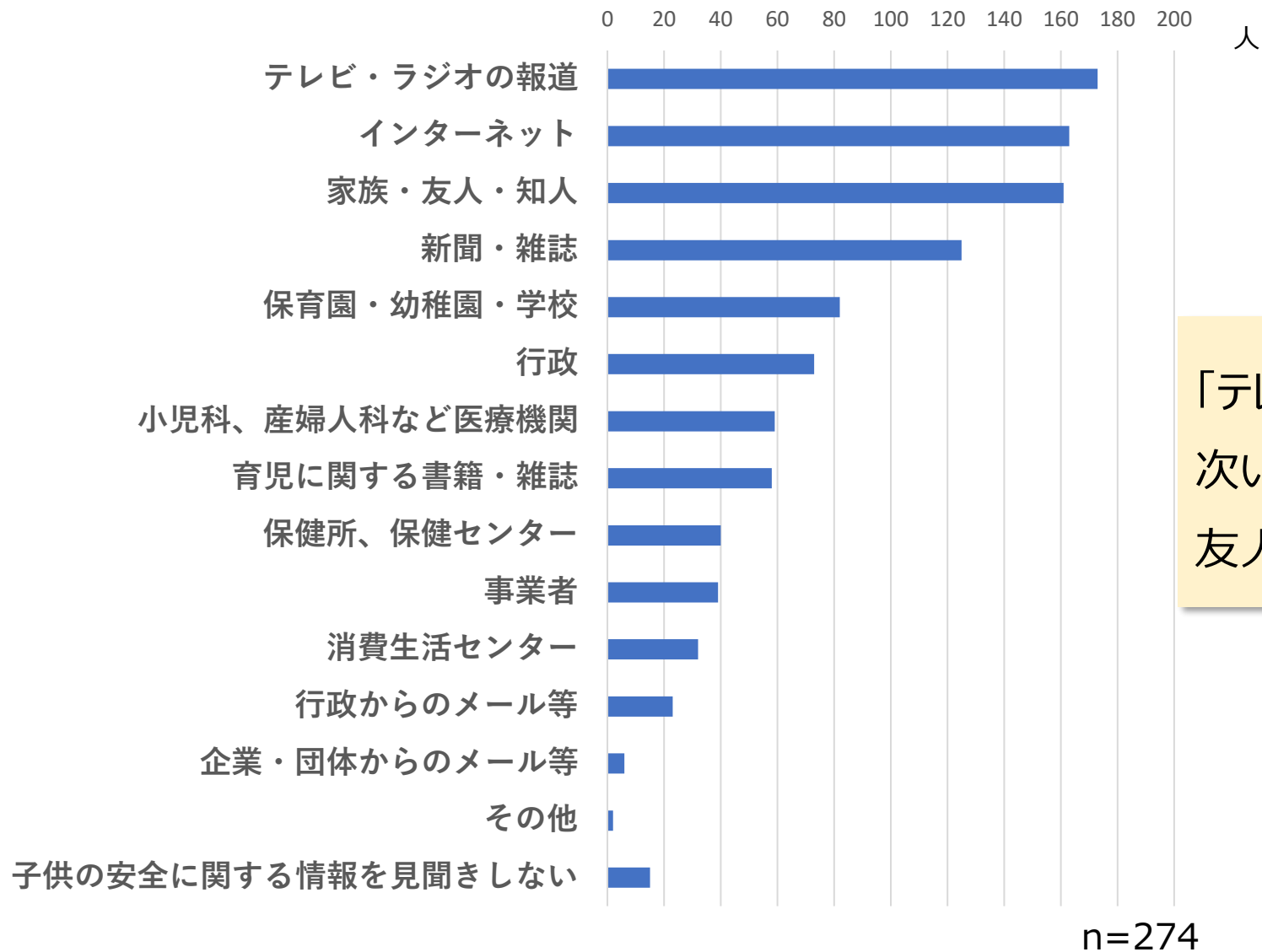
日常生活における子供の事故やケガの防止について欲しい情報



「ケガに対する応急処置、対処方法」が最も多く（213人・78%）、次いで「安全対策、事故防止のポイント」が202人（74%）、「実際の事故事例」が189人（69%）であった。

日常生活における子供の事故やケガの防止について、欲しい情報
(複数回答)

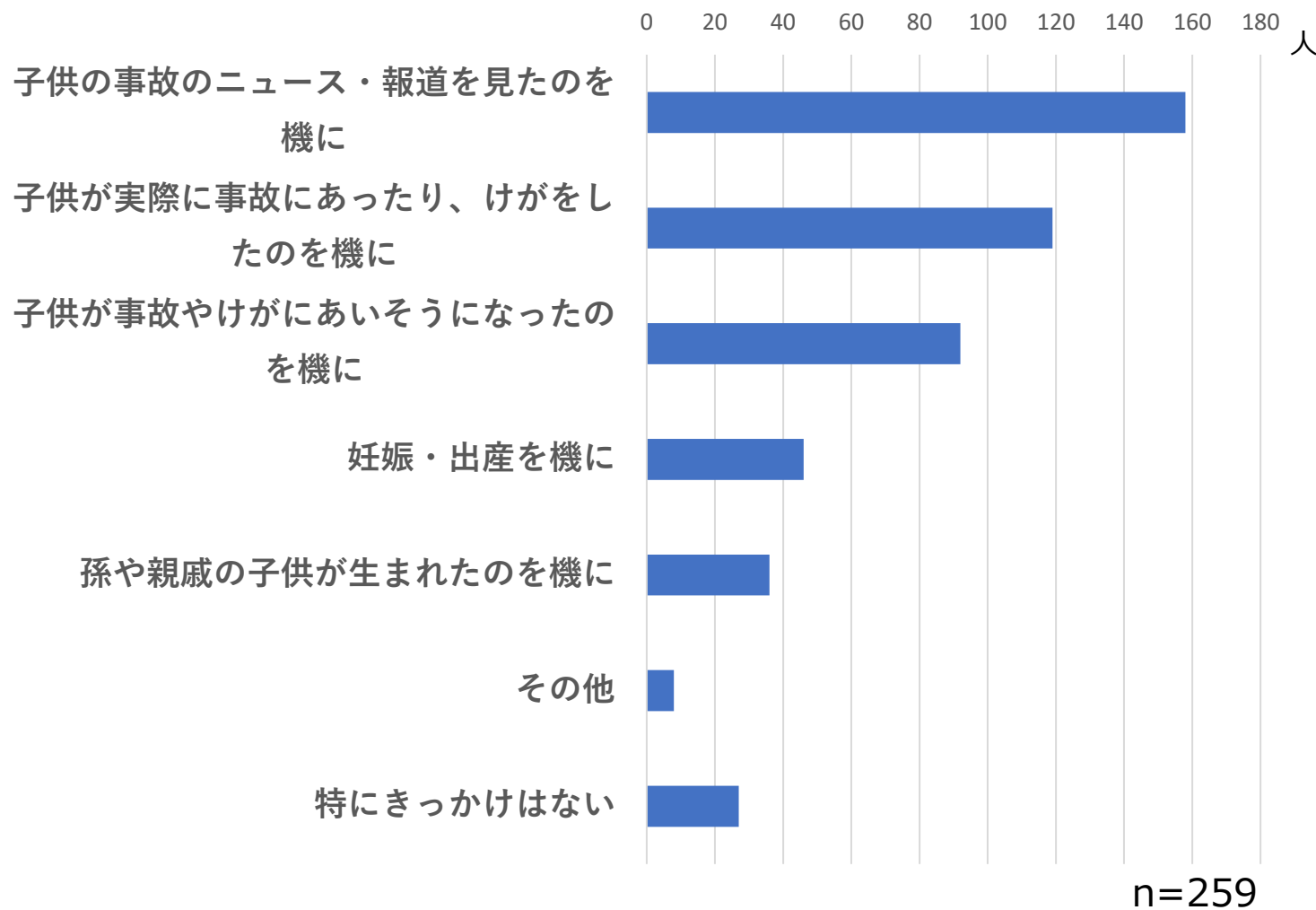
子供の事故やケガの防止に関する情報を、どこから入手・見聞きするか



「テレビ・ラジオの報道」が最も多く（173人・63%）、次いで「インターネット」が163人（59%）、「家族・友人・知人」が161人（59%）であった。

子供の事故やケガの防止に関する情報を、どこから入手・見聞きするか（複数回答）

子供の事故やケガの防止に関する情報を調べたきっかけ

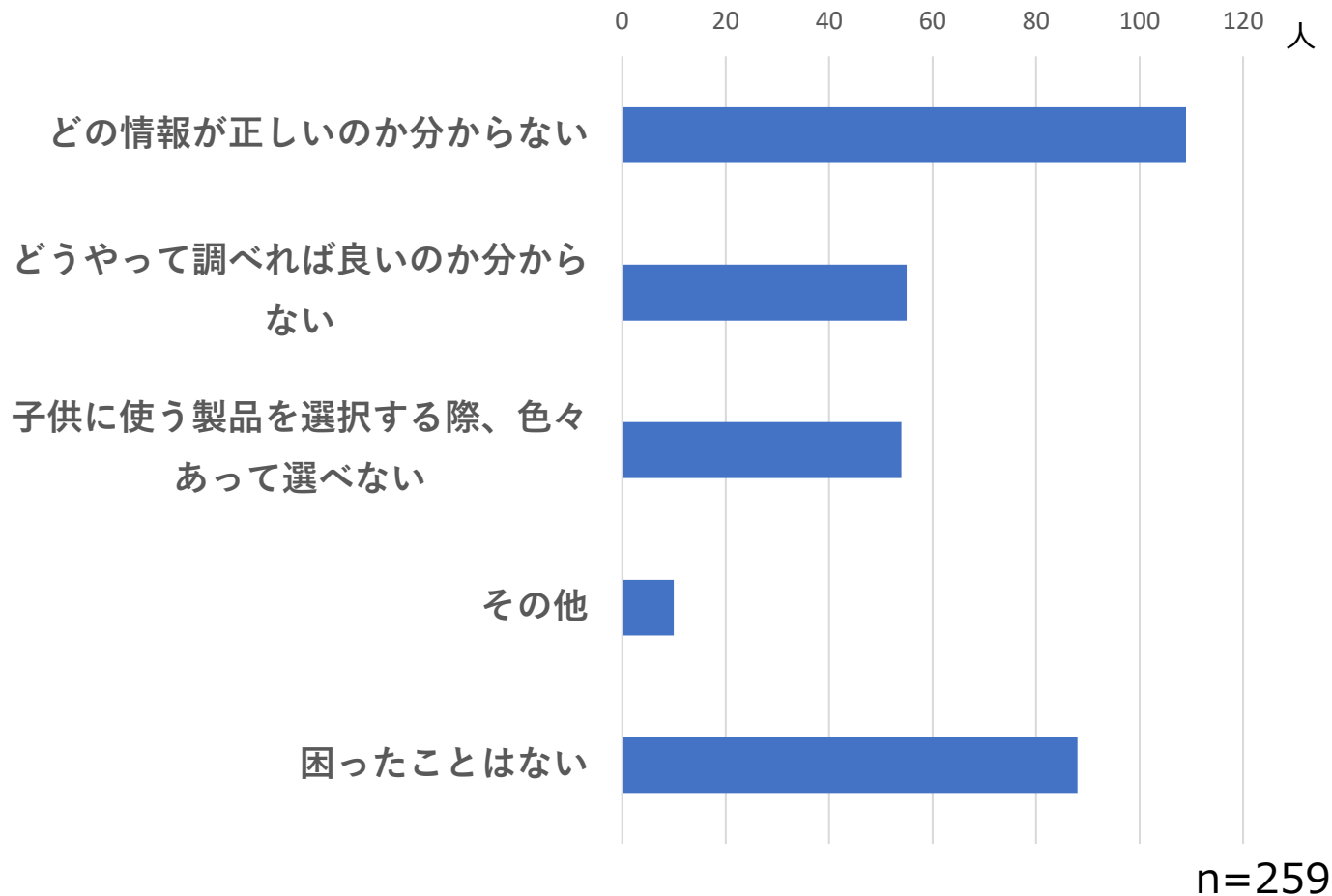


子供の安全に関する情報を見聞きしたことのある259人に、子供の事故やケガの防止に関する情報を調べたきっかけを質問した。

きっかけとして最も多かったのは「子供の事故のニュース・報道を見たのを機に」（158人・61%）であった。その他の回答には、「仕事やボランティア活動で子供に関わっているから」などがあつた。

子供の事故やケガの防止に関する情報を調べたきっかけ
(複数回答)

子供の事故やケガの防止に関する情報を入手するときに困ったこと

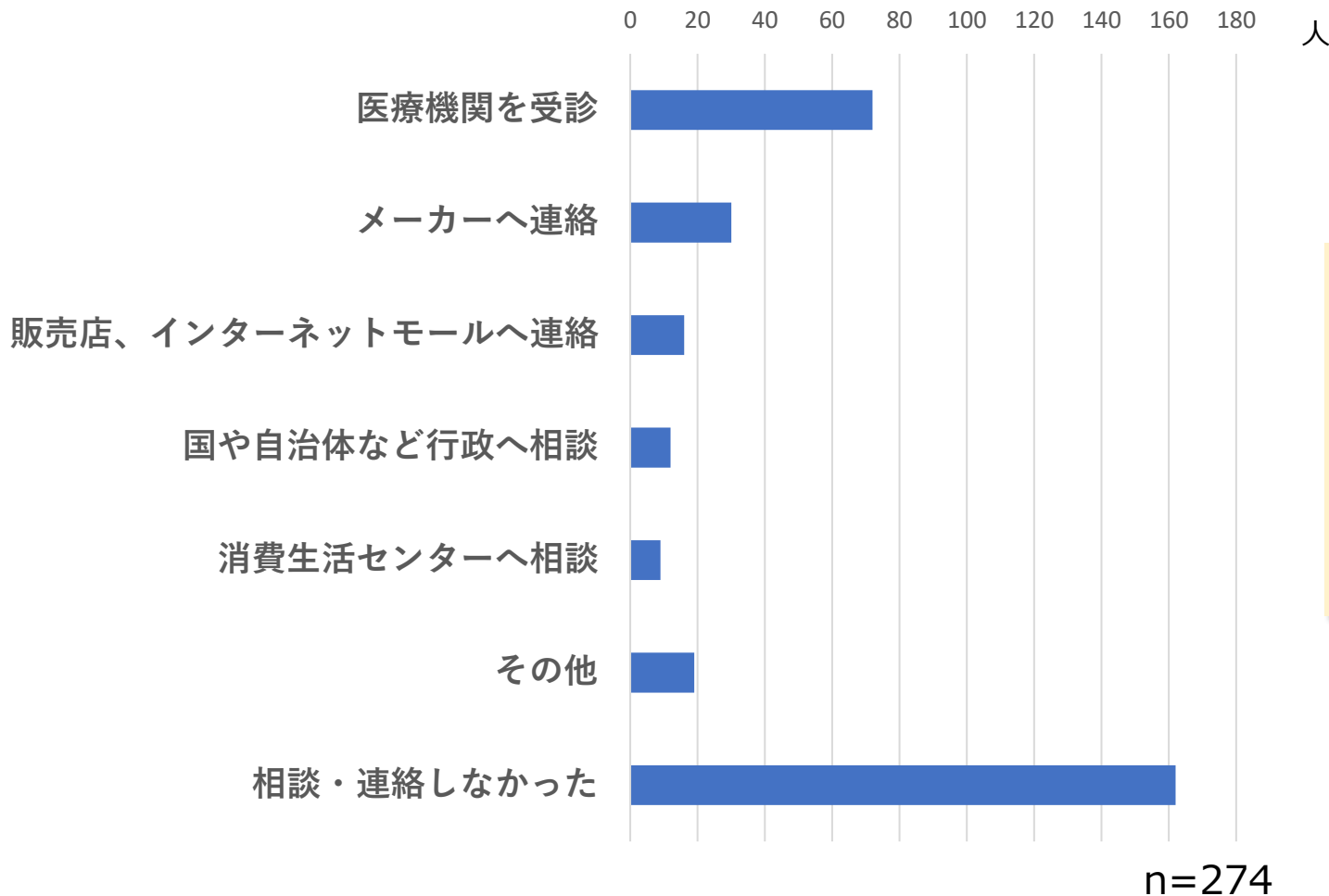


子供の安全に関する情報を見聞きしたことのある259人に、子供の事故やケガの防止に関する情報を入手するときに困ったことを質問した。

困ったこととして最も多かったのは「どの情報が正しいのか分からない」（109人・42%）、次いで「困ったことはない」（88人・34%）であった。

子供の事故やケガの防止に関する情報を入手するときに困ったこと
(複数回答)

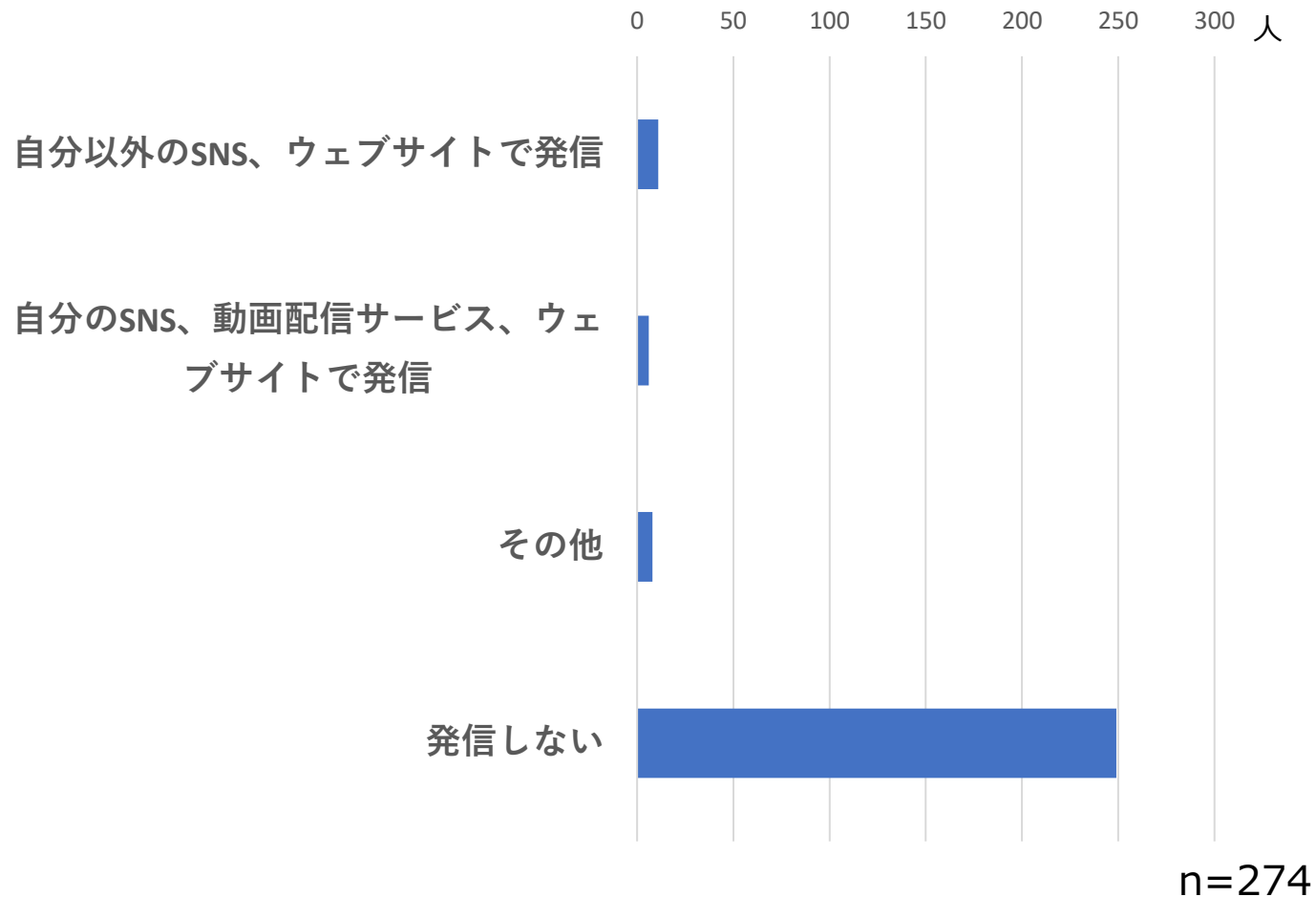
子供が商品等による事故にあった（あいそうになった）時の相談・連絡先



「相談・連絡しなかった」が162人（59%）と最も多く、半分以上の人が、子供が商品等による事故にあった（あいそうになった）にもかかわらず、どこにも相談・連絡していなかった。

子供が商品等による事故にあった(あいそうになった)時の相談・連絡先
(複数回答)

子供が商品等による事故にあった（あいそうになった）時に発信したか

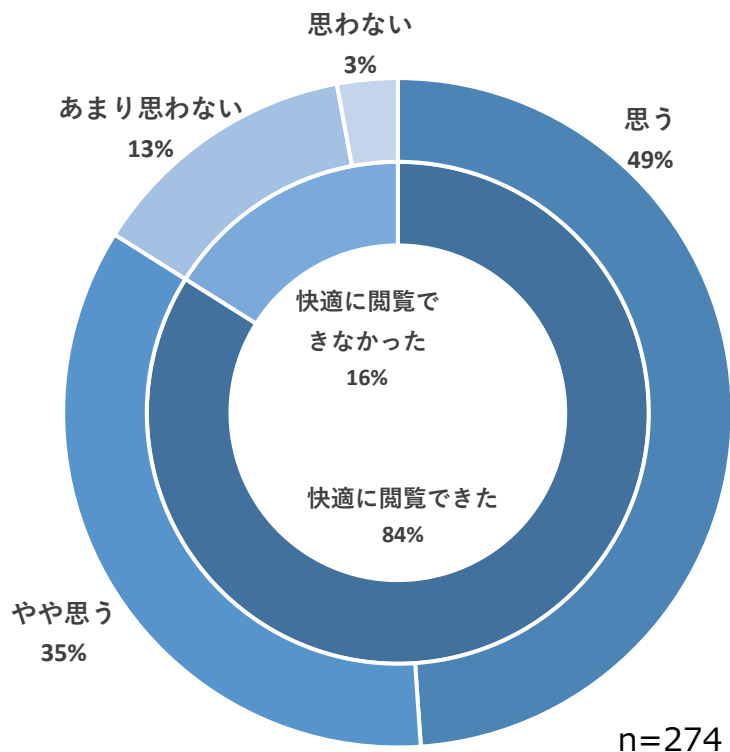


子供が商品等による事故にあった・あいそうになった時、そのことをSNSなどで発信したかを質問した。

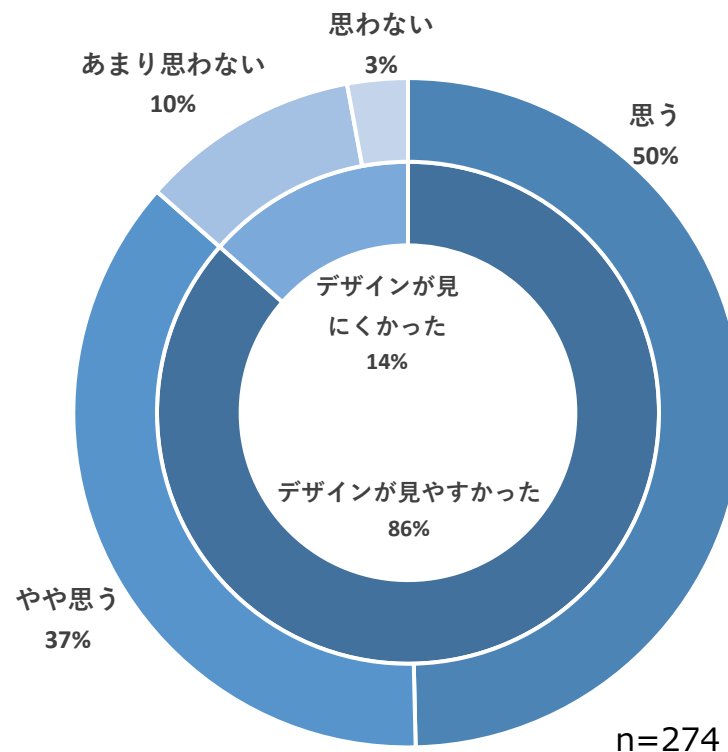
「発信しない」が249人（91%）と最も多かった。主な理由は、「プライバシー・個人情報への懸念」、「(商品ではなく)親が悪いと言われそうだから」などであった。

子供が商品等による事故にあった(あいそうになった)時に発信したか
(複数回答)

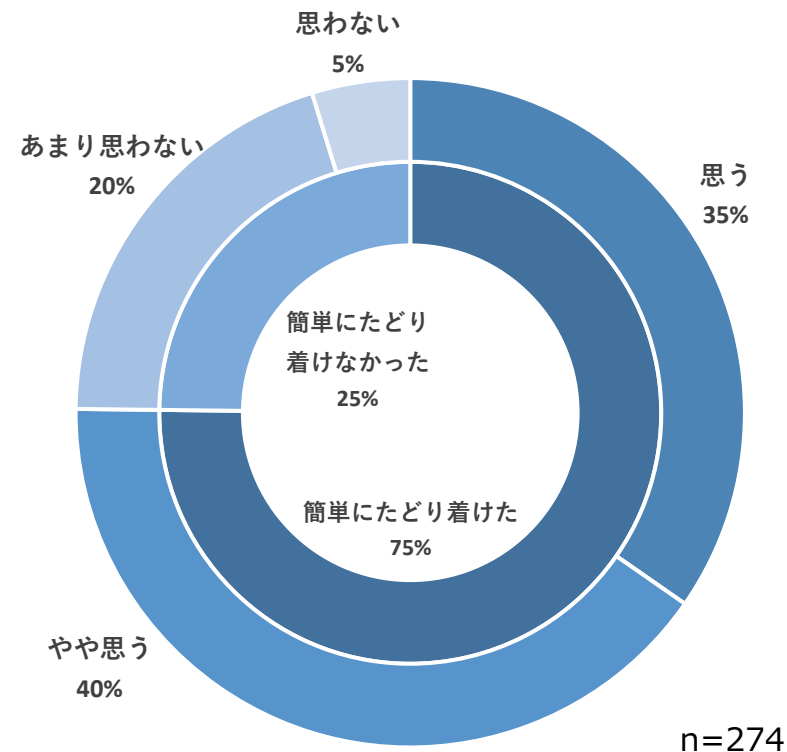
プラットフォームSafe KidsのWEBサイトについて



ストレスなく快適に閲覧できたか



デザインが見やすかったか

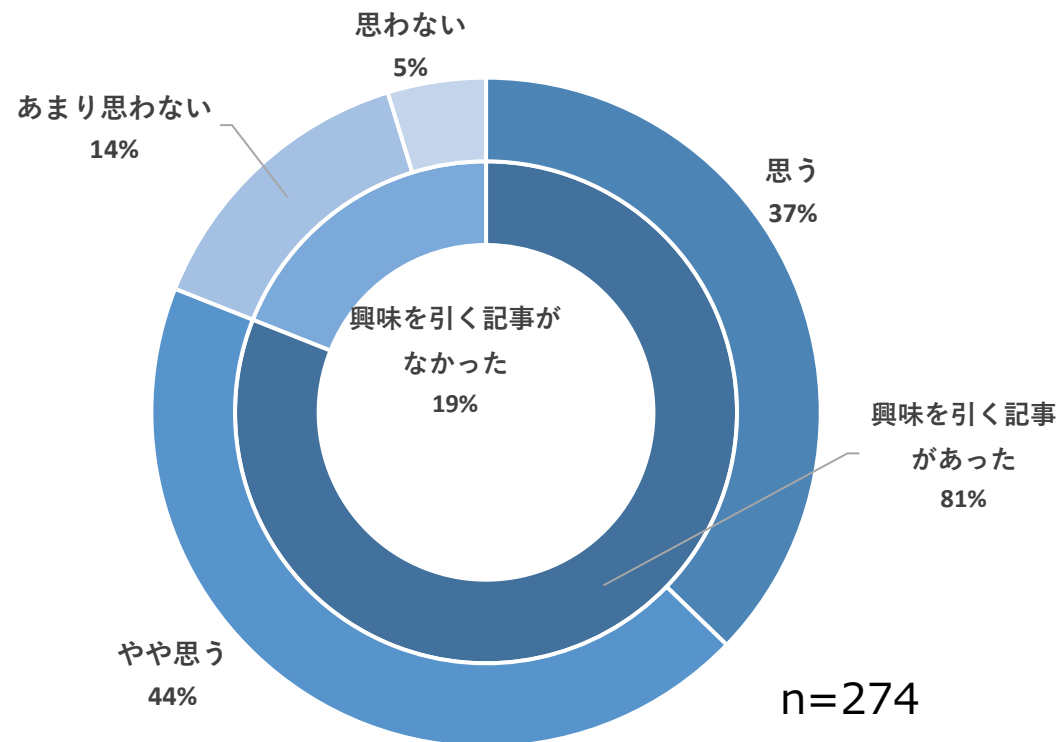


見たい情報に簡単にたどり着けたか

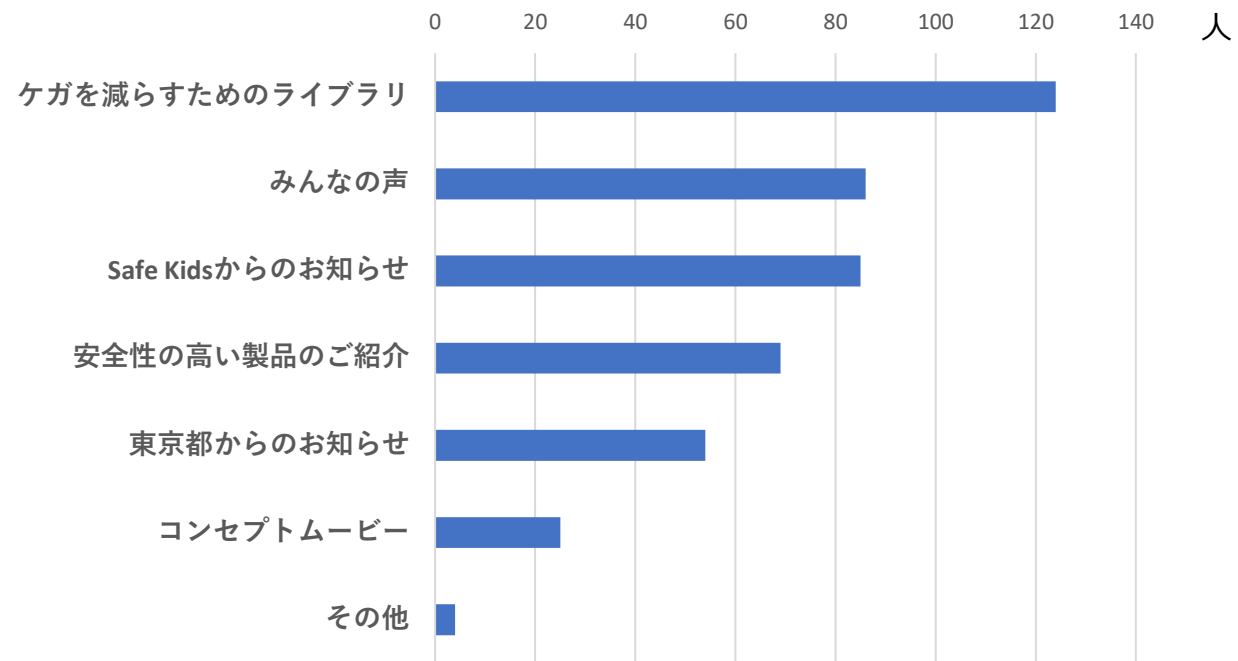
プラットフォームSafe KidsのWEBサイト (<https://www.safekidsninja.com/>) を見ての感想を質問した。

「ストレスなく快適に閲覧できたか」、「デザインが見やすかったか」のいずれの質問についても、8割超の調査員が「思う」「やや思う」と回答した。一方、4人に1人の調査員が「見たい情報に簡単にたどり着けなかった」との意見であった。

プラットフォームSafe KidsのWEBサイトについて



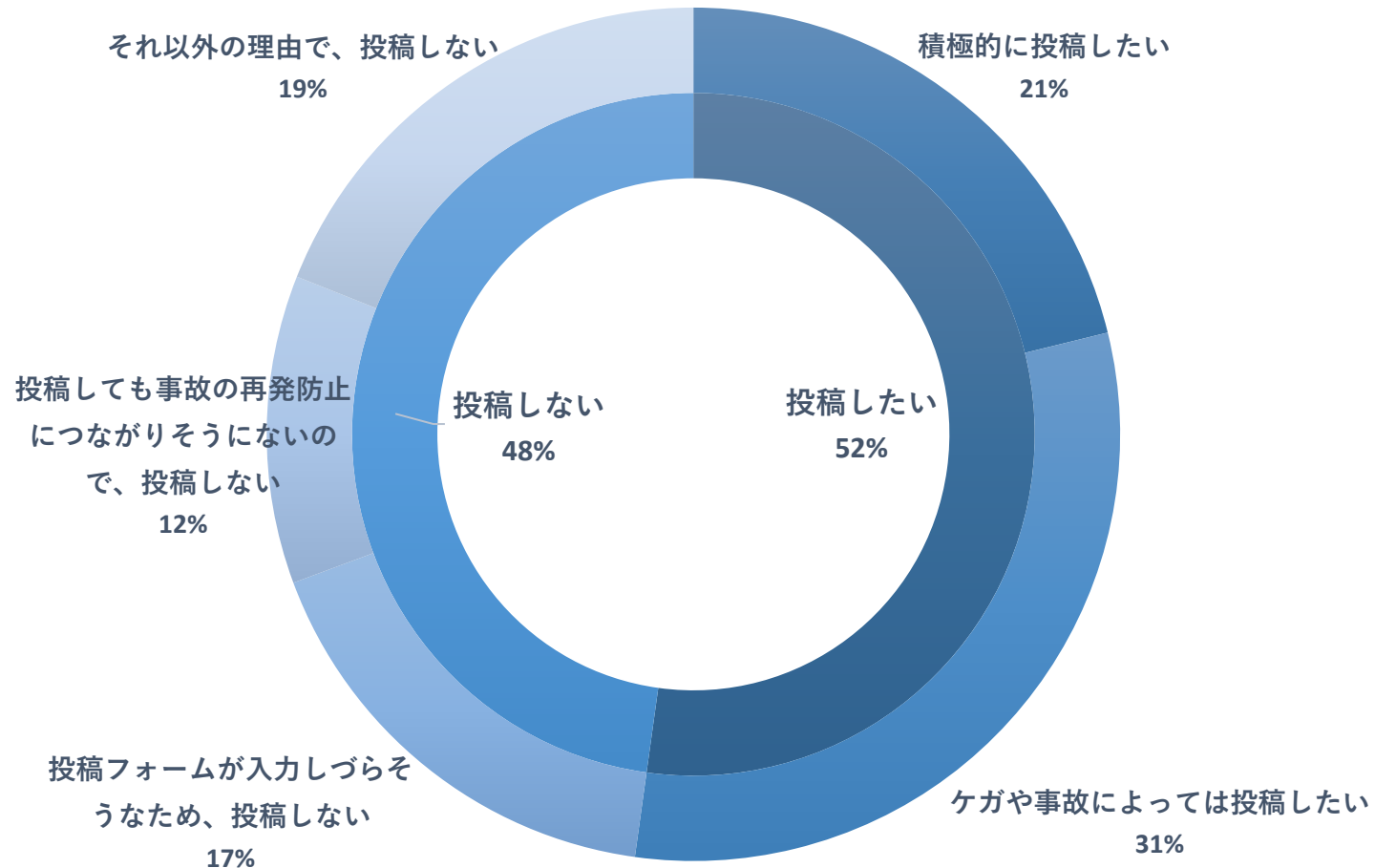
興味を引く記事があったか



興味を引かれた記事（複数回答）

プラットフォームSafe KidsのWEBサイト（<https://www.safekidsninja.com/>）に興味を引く記事があったか質問した。「興味を引く記事があった」という意見が8割を超え、具体的に興味を引かれた記事については、「ケガを減らすためのライブラリ」が124人（56%）で最も多かった。一方、「事故の予防だけでなく事故が発生した時の対処法」「季節や年齢ごとの事例」があればもっと閲覧したい、という意見もあった。

プラットフォームSafe Kids「みんなの声」への投稿



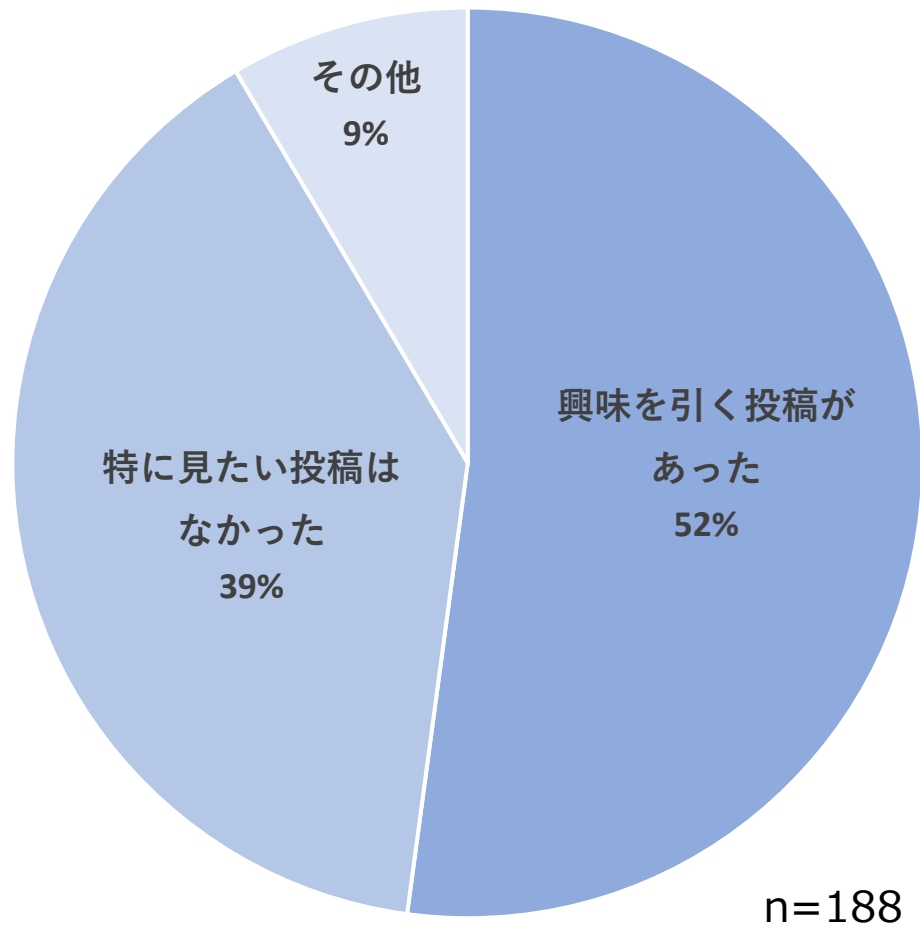
n=274

子供がケガや事故にあった場合、プラットフォームSafe Kids内の投稿フォーム「みんなの声」に投稿するかを質問した。

「積極的に投稿したい」または「ケガや事故によっては投稿したい」と回答した人は計143人（52%）と半数を超えた。

子供がケガや事故にあった場合、「みんなの声」に投稿するか

プラットフォームSafe Kids「公式Instagram」について



公式Instagramの投稿を見ての感想

プラットフォームSafe Kids「公式Instagram」の投稿を見ての感想を、調査員のうちInstagramのアカウントを持っている188人に質問した。
「興味を引く投稿があった」が98人（52%）と半数を超えた。

プラットフォームSafe Kids「公式Instagram」について

◆「興味を引く投稿があった」と回答した人が、興味を引かれた投稿

(自由記述・抜粋)

- ・熱中症対策、ヘアアイロンによるやけど（各11人）
- ・ベランダやマンションからの転落事故、水の事故（各9人）

※回答者の中には、本調査がきっかけとなり、フォローしたという人もいた。

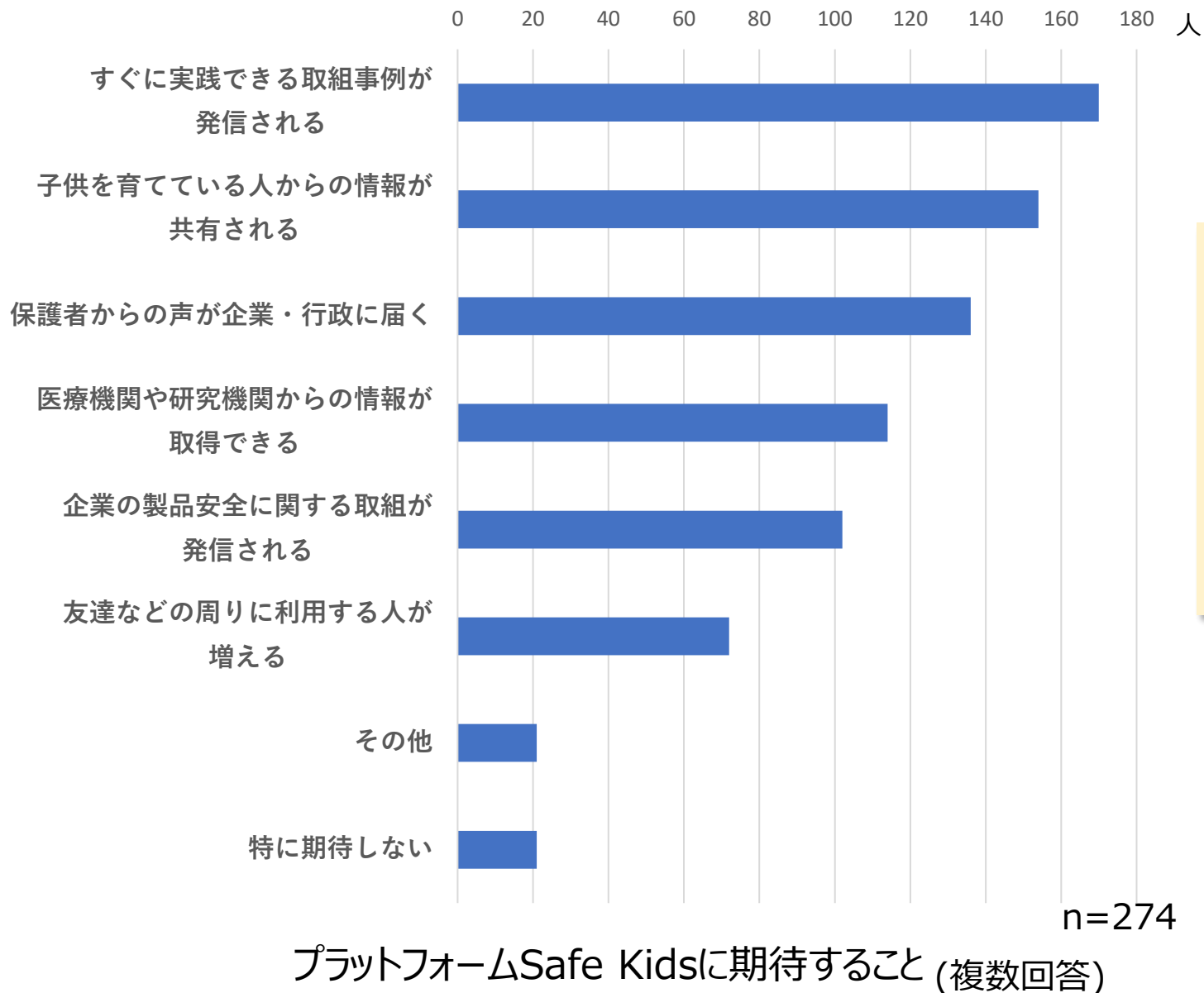


◆「特に見たい投稿はなかった」と回答した人は、どのような投稿があれば閲覧したいか

(自由記述・抜粋)

- ・実験映像など、見てイメージが湧くような画像や動画
- ・保育園やデパート、スーパー等、様々な場所での事故の事例
- ・子供と一緒に見られる投稿

プラットフォームSafe Kidsに期待すること



「すぐに実践できる取組事例が発信される」が最も多く（170人・62%）、次いで「子供を育てている人からの情報が共有される」（154人・56%）、「保護者からの声が企業・行政に届く」（136人・49%）であった。